

# 日本国際理解教育学会

## 第 27 回研究大会プログラム

Japan Association for International Education  
27th Annual Conference, University of Tsukuba

主催：日本国際理解教育学会  
共催：筑波大学  
後援：茨城県教育委員会、つくば市教育委員会、土浦市教育委員会

会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本国際理解教育学会第 27 回研究大会を下記の日程で開催することになりました。会員の皆様はもとより、国際理解教育にご関心をお持ちの方々におかれましても、お誘い合わせの上、ご参加を賜りますようお願い申し上げます。

第 27 回研究大会実行委員長 嶺井 明子  
副委員長 井田 仁康

大会会場：筑波大学・筑波キャンパス 2A 棟・2B 棟（〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1）  
大会日程：2017 年 6 月 3 日（土）・4 日（日）

### 第 1 日目 6 月 3 日（土）

9:30	10:00	12:00	13:00	14:00	17:00	17:30	19:30
受付	自由研究発表	休憩	総会	公開シンポジウム			懇親会

### 第 2 日目 6 月 4 日（日）

9:00	9:30	12:00	13:00	16:00
受付	自由研究発表	休憩	特定課題研究	

連絡先：日本国際理解教育学会第 27 回研究大会実行委員会  
筑波大学人間系教育学域内  
E-mail : jaie2017@human.tsukuba.ac.jp

## 公開シンポジウム A

第 1 日目 14:00～17:00 (2B412 教室)

### 湖がつなぐ国際理解教育——アラル海と霞ヶ浦

アラル海はカザフスタンとウズベキスタンの両国にまたがる湖です。河川からの水の流入が減り、湖が縮小していることはよく知られていますが、アラル海の回復に取り組んでいることは、あまり知られていないように思います。さらに、アラル海周辺の人々の生活や、その湖に関する子どもたちの認識、関心についてもあまり知られていません。一方で、つくばは霞ヶ浦という日本でも 2 番目に大きい湖をもち、その恩恵を受けています。私たちの生活にとって水は欠くことができないものであり、アラル海も霞ヶ浦も周辺の人々にとって大事な生活の糧となっています。しかしながら両湖も、水の減少、汚染といった課題をかかえ、それを克服しようとしています。抱えている課題は異なっても、湖の重要性や課題の克服に向けている人々の姿勢には共通のものがあります。こうした自然環境や社会環境が異なっても、ESD の観点から湖という資源を守っていこうとする共通の活動を通じて、アラル海周辺の子どもたちと霞ヶ浦周辺の子どもたちの共通教材として湖の重要性を考え、国際理解を推進できる教育を目指そうとするのが本シンポジウムの目的となります。

司 会： 井田 仁康 (筑波大学)、タスタンベコワ・クアニシ (筑波大学)

通 訳： ミソチコ・グリゴリー (モスクワ市立教育大学／ロシア)

シンポジスト：

危機に直面するアラル海

ジャンベコフ・ハイルラ (Zhanbekov, Khairulla)  
(カザフ国立教育大学自然科学教育学部／カザフスタン)

アラル海問題への関心が低い子どもたち——苦戦する教師

コプトレウオフ・ヌラン (Koptileuov, Nurlan)  
(アラル郡第 84 番初等中等教育学校／カザフスタン)

霞ヶ浦の環境改善に向けた挑戦

三輪 俊一 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

考えよう！アラル海と霞ヶ浦——共通教材の追究

荒井 正剛 (東京学芸大学)

## 公開シンポジウム B

第 1 日目 14:00～17:00 (2B411 教室)

### 越境する教育イニシアチブの理念と実際——共生・連帯の視点から

国際的に教育の主導権を握り、各国に多大な影響を与えている国際機関として、経済協力開発機構 (OECD)、ユネスコ、国際バカロレア (IB) 機構などが挙げられます。これらの機関が提唱する教育変革の構想は、予測不能な時代の到来を迎える中で、果たして国際理解教育の原点である平和な共生社会構築へのロードマップとなりうるのでしょうか。ユネスコの世界市民教育／グローバル・シティズンシップ教育 (Global Citizenship Education: GCED)、OECD 等の国際機関が構築した学力観、国際バカロレア (IB) の教育プログラムの導入といった動向を踏まえ、フロアとの意見交換を含めて議論を深めたいと考えております。

司 会： 嶺井 明子 (筑波大学)、佐藤 郡衛 (目白大学)  
通 訳： 金 仙美 (中央大学校／韓国)

シンポジスト：

ユネスコの「世界市民教育 (GCED)」の可能性と限界

——世界市民性 (Global Citizenship) の概念の検討

朴 淳庸 (Pak Soon-Yong)

(ユネスコ・アジア太平洋国際理解教育センター・延世大学／韓国)

国際イニシアチブと学力観——21 世紀において誰が・何のための能力を決めるのか

丸山 英樹 (上智大学グローバル教育センター)

国際バカロレア (IB) の教育プログラムの導入と「グローバル人材」育成

——共生か、競争か

菊地 かおり (筑波大学)

中国における国際的な教育イニシアチブの影響

姜 英敏 (北京師範大学／中国)

## 特定課題研究

第2日目 13:00～16:00 (2B208・2B209 教室)

### 国際理解教育における理念研究、方法研究の展望をひらく

不確実性の時代と言われる昨今、地球規模の環境問題や格差や不寛容という社会問題がこれまで以上に深刻化し、国際理解教育が目指してきた理念の重要性はますます増していると言えます。ただ、新たな時代状況において、その理念および方法を捉え直していくことは喫緊の課題と言えるでしょう。こうした意識のもとに、研究・実践委員会では、3本の「この指とまれプロジェクト」を下記の通りにスタートさせました。1年目は基本的な情報収集や基礎研究を行い、2年目は実践を意識した研究を本格始動させ、3年目は各プロジェクト同士の関連をまとめて現代に求められる市民像を共有し、その上で国際理解教育の課題を明らかにしたいと考えております。本シンポジウムでは、「国際理解教育における理念研究、方法研究の展望をひらく」というテーマのもとに、3年間にわたる研究プロジェクトのルート・マップを提示し、各分科会の進捗状況と展望をご説明し、さらに参加型ワークショップを通して会員の皆様の意見を今後の事業展開に活かしていく貴重な機会としたいと考えています。

司会・趣旨説明： 永田 佳之（聖心女子大学）

#### 第一部 分科会報告

グローバル時代の市民像を問う

渡部 淳（日本大学）

難民問題から国際理解教育を問う

山西 優二（早稲田大学）

SDGs 時代の水・気候変動教育を問う

宇土 泰寛（椙山女学園大学）

#### 第二部 ワークショップ

グループワーク / シェアリング  
まとめ

# 第1日目 6月3日(土曜日)

## 自由研究発表 第1分科会～第8分科会 (10:00～12:00)

自由研究発表は、発表20分、質疑応答10分の30分です。30分の発表時間終了時には、途中であっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

### ◆第1分科会 (2A312 教室)

司会：宇土 泰寛 (相山女学園大学)、市瀬 智紀 (宮城教育大学)

- (1) 価値を伴う教育の共通理解をいかに構築するか—進学校・SGH・ESDの葛藤—  
石森 広美 (宮城県仙台二華高等学校)
- (2) 学校教育におけるESDの本質的課題としてのホールスクール  
—横浜市立永田台小学校の実践からの示唆—  
永田 佳之 (聖心女子大学)  
住田 昌治 (横浜市立永田台小学校)
- (3) 教員養成課程における「ESD授業」と学習者の変容  
中井 精一 (大阪教育大学)
- (4) 教育の多様性と再方向性—持続可能な開発と人権との関係で—  
伊井 直比呂 (大阪府立大学)

### ◆第2分科会 (2A313 教室)

司会：渡部 淳 (日本大学)、橋崎 頼子 (奈良教育大学)

- (1) 特別活動におけるグローバルシティズンシップ教育の実践と検討  
—アフガニスタン女子高生招へいプログラムにおけるアクションリサーチ—  
由井 一成 (学習院大学・院生)
- (2) 小中等連携世界市民教育の効果性の分析  
○Park Hwanbo (Chungnam National University)  
Kim Youngsik (Korean Research Institute for Vocational Education and Training)  
Yoo Hyeyoung (Chungnam National University)
- (3) 中学校におけるグローバルシティズンシップ教育の可能性  
松倉 紗野香 (埼玉県上尾市立東中学校)
- (4) グローバルシティズンシップ教育をとおしての教師の変容  
松倉 紗野香 (埼玉県上尾市立東中学校)  
山崎 瑛莉 (上智大学グローバル教育センター)

### ◆第3分科会 (2A212 教室)

司会：柴田 政子 (筑波大学)、見世 千賀子 (東京学芸大学)

- (1) 多言語多文化教材としての『にはほんご』(1979) の可能性  
横田 和子 (目白大学)
- (2) 2017 韓国教育部多文化教育政策  
Kim Kapsung (江原道教育庁)
- (3) 「移動する子どもたち」の教育支援  
—関連報告書を国際理解教育の視点から読み解く—  
福山 文子 (中央大学・非常勤講師)
- (4) 多文化に開かれた学校開発—チューリッヒの事例から—  
中山 あおい (大阪教育大学)

### ◆第4分科会 (2A203 教室)

司会：山西 優二 (早稲田大学)、金久保 紀子 (筑波学院大学)

- (1) 地域の未来を積極的に創造しようとする生徒の育成  
—国際理解教育の観点から行う地域発信プロジェクト—  
○小黒 淳一 (上越市立城北中学校)  
原 瑞穂 (上越教育大学大学院)
- (2) 日々の暮らしの中の世界のつながりを考える  
—東海大学教養学部 SOHUM アースミュージアムプロジェクトの実践より—  
岩本 泰 (東海大学)
- (3) 留学生の地域社会でのネットワーク作りの課題  
金久保 紀子 (筑波学院大学)
- (4) 大学におけるアクティブラーニングの試み  
—協同学習としての NGO スタディー—  
小野 行雄 (かながわ開発教育センター／法政大学・非常勤講師)

### ◆第5分科会 (2B209 教室)

司会：桐谷 正信 (埼玉大学)、田中 泉 (広島経済大学)

- (1) 国際理解をめざす歴史教育の実践的研究  
西村 美智子 (都留文科大学・非常勤講師)
- (2) 地域に立脚した移民学習の現代的意義—鹿児島を出た民の歴史を手掛かりに—  
酒井 佑輔 (鹿児島大学)
- (3) 韓国の中学校の「世界史」の領域に表れる文化多様性の範囲とレベル  
Heo Shinhye (Hannam University)

(4) 日本と朝鮮半島との関係を考える小学校社会科歴史教育の実践

太田 満 (共栄大学)

#### ◆第6分科会 (2B208 教室)

司会：風巻 浩 (麻生高校/聖心女子大学)、手嶋 将博 (文教大学)

(1) 小大連携の国際理解教育実践が公立小学校児童へもたらす効果

—外国人研修員と日本人小学生との交流実践事例を通して—

瀧本 哲弘 (明石市立中崎小学校)

(2) 留学生の人的ネットワーク形成と大学での学びに関する事例研究

亀田 千里 (筑波学院大学)

(3) 英語によるコンテンツ授業で受講生達は何を学んだのか

—留学生と日本人学生がともに学ぶ授業実践—

瀬尾 匡輝 (茨城大学)

(4) 海外協定校における国際理解教育活動を行う試みと問題点

—カンボジア王立プノンペン大学における「主体的参加プログラム」の事例から—

越野 香子 (東京福祉大学)

#### ◆第7分科会 (2B207 教室)

司会：釜田 聡 (上越教育大学)、南 美佐江 (奈良教育大学附属中等教育学校)

(1) 「食」から学ぶ異文化理解教室 その1

長谷川 功 (桐蔭学園中学校高等学校)

(2) 食文化から見る東アジア交流史授業の成果と課題

—釜山大学校師範大学附設高校での実践を通して—

Kim Hyunjin (北海道教育大学)

(3) 文化交流から国際理解教育につなぐ

○Kim Sunmi (中央大学校)

成田 真美 (Seoul Woosol Elementary school)

(4) 国際理解教育・開発教育におけるふりかえりの再考

林 加奈子 (桜美林大学)

#### ◆第8分科会 (2B206 教室)

司会：小林 亮 (玉川大学)、磯田 三津子 (埼玉大学)

(1) 他者の記憶を分有する—理解を超えた傷みへの「共震」とともに—

吉田 直子 (東京大学・院生)

(2) 国際理解教育の実践を支える教育理念とは  
—Summerhill School と民主主義—

阿部 始子 (東京学芸大学)

(3) 地球市民としての意識を育てる音楽科教育

居城 勝彦 (東京学芸大学附属高等学校)

(4) 水問題解決に向けた大陸間ミュージカル広場

林 敏博 (椋山女学園大学)

---

**総会** : 2B412 教室 (13:00~14:00)

**公開シンポジウム** (14:00~17:00)

A 湖がつなぐ国際理解教育——アラル海と霞ヶ浦 (2B412 教室)

B 越境する教育イニシアチブの理念と実際——共生・連帯の視点から (2B411 教室)

**懇親会** : 食堂 (2B 棟 1 階) (17:30~19:30)



## 第2日目 6月4日（日曜日）

### 自由研究発表 第9分科会～第16分科会（9:30～12:00）

自由研究発表は、発表20分、質疑応答10分の30分です。30分の発表時間終了時には、途中であっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。

#### ◆第9分科会（2A312 教室）

司会：井田 仁康（筑波大学）、山中 信幸（川崎医療福祉大学）

（1）ESD を視点としたジオパークと学校教育の協働事例

松田 剛史（北海道大学・院生）

（2）SDGs 時代における ESD のあり方

森田 育志（神戸大学附属中等教育学校）

（3）水問題と SDGs のための多様な教育的アプローチ

宇土 泰寛（椋山女学園大学）

（4）考えよう！持続可能な社会の実現のために、私たちができること

—タイにおける国際協力から佐渡の未来を考える—

増田 有貴（佐渡市立佐和田中学校）

（5）グローバル教員養成を目指した海外派遣・活動の成果と課題

石坂 広樹（鳴門教育大学）

#### ◆第10分科会（2A313 教室）

司会：森田 真樹（立命館大学大学）、石川 一喜（拓殖大学）

（1）ESD と開発教育の関係について—実践検討を中心として—

鈴木 隆弘（高千穂大学）

（2）食育における ESD の取り組み

永野 和美（神戸大学附属中等教育学校）

（3）「気候変動教育におけるアニメーション活用の可能性と課題」

—公立学校の授業実践の試みから—

○神田 和可子（聖心女子大学・院生）

グエン・テュー・ガン（聖心女子大学）

永田 佳之（聖心女子大学）

（4）社会変容をもたらす若者の参加—ユネスコ／日本 ESD 賞受賞団体をもとに—

○曾我 幸代（名古屋市立大学）

永田 佳之（聖心女子大学）

(5) ESD 実践を意義あるものにするために—ESD 研究指定校の 2 年間の取り組みより—

石川 一喜 (拓殖大学)

#### ◆第 1 1 分科会 (2A212 教室)

司会：大津 和子 (北海道教育大学)、小関 一也 (常盤大学)

(1) 「ブータンから学ぶグローバルシティズンシップ講座」実践報告

大塚 圭 (中央大学杉並高等学校)

(2) 多元的シティズンシップの基盤形成に資する道德教育カリキュラム

—ケアの倫理に基づく他者との関わりの問い直しを通して—

○小嶋 祐何郎 (奈良教育大学附属中学校)

橋崎 頼子 (奈良教育大学)

北山 夕華 (サウスイースト・ノルウェー大学)

(3) 中学校の世界市民教科書の活用方案

Seo Gyungjeon (大安中學校)

(4) 参加型学習としての初期社会科

風巻 浩 (麻生高校/聖心女子大学)

#### ◆第 1 2 分科会 (2A203 教室)

司会：森茂 岳雄 (中央大学)、中山 あおい (大阪教育大学)

(1) 「対立を処する」授業の実践

大山 正博 (神戸大学・院生)

(2) 福祉的視点を取り入れた多文化共生教育—学びの環境が厳しい子どもたちとともに—

孫 美幸 (大阪大学)

(3) 外国にルーツを持つ家族のウェルビーイング—愛知県での参加型シンポジウムを振り返る—

○Berkowitz Melisanda (中京大学)

Andrea Carlson (愛知県立大学)

(4) 多文化共生に向けた市民性教育の検討

—小山台高校定時制課程「市民科」の取り組み—

○見世 千賀子 (東京学芸大学国際教育センター)

角田 仁 (東京都立一橋高等学校)

(5) Development of Holistic Pedagogy of Education for International Understanding in the 21st Century

○Kim Dawon (Gwangju National University of Education)

Lee Kyonghan (Cheonju National University of Education)

Kang Soonwon (Hanshin University)

Kim Hyunduk (Koje University)

### ◆第13分科会 (2B209 教室)

司会：中山 京子 (帝京大学)、横田 和子 (目白大学)

(1) 「共生」を問う学びの検討

—徳島県阿南市立桑野小学校での授業実践を通して—

高藤 眞意 (鳴門教育大学・院生)

(2) 日本童詩 「おおきくなあれ」を通じた多文化理解 (低学年用)

Yoon Myong Ja (Changdong Elementary School)

(3) イギリス小学校での「国際理解教育かるた」創作活動と、

国際理解教育における意義

景谷 峰雄 (フロムジャパン)

(4) 文化多様性の教育連携のための初等教育課程の分析

○Cha Bo Eun (Seoul National University of Education)

Han Geon Soo (Kangwon National University)

Lee Seon Young (Seoul National University of Education)

(5) 日中共同『異己』理解・共生授業プロジェクトについて—理解から共生へ—

○釜田 聡 (上越教育大学)

姜 英敏 (北京師範大学)

森茂 岳雄 (中央大学)

市瀬 智紀 (宮城教育大学)

### ◆第14分科会 (2B208 教室)

司会：渋谷 真樹 (奈良教育大学)、菊地 かおり (筑波大学)

(1) 国際バカロレアにおける国際理解教育—クルト・ハーンに着目して—

本多 舞 (筑波大学・院生)

(2) 異質な他者と交差する「場」を意識した国際理解教育実践のあり方

—国際バカロレアに基づいた中学校社会科地理的分野を事例に—

津山 直樹 (中央大学・院生)

(3) 「総合的な学習の時間」の地域学習における海外教育機関との交流に関する一考察

原 瑞穂 (上越教育大学大学院)

(4) 中高一貫校におけるグローバル人材育成のための国際交流事業の実践と評価

岩見 理華 (神戸大学附属中等教育学校)

(5) 高等学校における国際教育の貢献要因・阻害要因についての考察

○工藤 泰三 (名古屋学院大学)

今野 良祐 (筑波大学附属坂戸高等学校)

### ◆第15分科会 (2B207 教室)

司会：藤原 孝章 (同志社女子大学)、福山 文子 (中央大学)

- (1) アフリカにおける実践型プログラムを通じた学習者の変容  
山崎 瑛莉 (上智大学グローバル教育センター)
- (2) 互恵性と持続可能性はスタディツアーで並立できるか  
—韓国スタディツアーからの一考察—  
荒川 裕紀 (明石工業高等専門学校)
- (3) ノンフォーマル教育としてのスタディツアー  
—U理論を参照に—  
丸山 英樹 (上智大学グローバル教育センター)
- (4) 海外フィールドスタディが育む能力とは—キャリア形成の視点から—  
岡本 能里子 (東京国際大学)
- (5) 海外研修を通じた大学生の文化理解に関する変容  
—アメリカ学校教育研修参加者の意識調査から—  
手嶋 将博 (文教大学)

### ◆第16分科会 (2B206 教室)

司会：吉村 雅仁 (奈良教育大学)、タスタンベコワ・クアニシ (筑波大学)

- (1) グローバル時代の言語文化教育と多文化共生  
山川 智子 (文教大学)
- (2) 「英語授業で多言語？」—中等教育における複言語教育実践—  
○吉村 雅仁 (奈良教育大学)  
南 美佐江 (奈良女子大学附属中等教育学校)
- (3) 国際理解教育におけるコミュニケーション再考  
宮野 祥子 (早稲田大学)
- (4) UAE における言語政策  
木村 有里 (横浜商科大学)
- (5) 「日本語」と消滅危機言語のバイリンガリズム  
—沖縄県宮古島市の中学生の言語意識の考察—  
藤田ラウンド 幸世 (国際基督教大学)

## 大会参加費・懇親会費・昼食等

本大会への参加申し込みは、学会ホームページ「研究大会のお知らせ」のオンラインフォームからお願いいたします（**2017年5月6日（土）締切**）。大会参加費、情報交換会参加費は下記口座にお振込み願います。期日（**2017年5月12日（金）**）を過ぎてからお振込みをされた方は、必ず「振込受領書」等の証明書類を受付にてご提示ください。振込みが確認できない場合は、当日大会参加費をいただくこともありますのでご了承ください。

振込先：（口座振替） 00200-2-138041

（加入者名） 日本国際理解教育学会第27回研究大会実行（委員会）

### （1）大会参加

参加費：事前振込： 学生・院生 2,500円 一般 3,500円

当日： 学生・院生 3,000円 一般 4,000円

### （2）昼食

3日（土）は、大学構内の食堂をご利用いただけます。4日（日）は学外で購入の上、持参願います。

### （3）情報交換会

参加費：事前振込： 学生・院生 3,000円 一般 3,500円

当日： 学生・院生 3,500円 一般 4,000円

## 会場案内

○筑波大学・筑波キャンパス ([http://www.tsukuba.ac.jp/access/map\\_central.html](http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html))

※交通アクセスの詳細については、大学HP「筑波大学交通アクセス」をご覧ください。

[http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba\\_access.html](http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html)

### 電車でのアクセス

最寄り駅：つくばエクスプレス線「つくば駅」下車 ※駅からはバスかタクシーをご利用ください。

◆バス つくばセンター（「つくば駅」A4出口隣接）6番のりば（筑波大学方面）から、①筑波大学循環（左回り・所要時間約15分）、②筑波大学中央行（所要時間約15分）、③筑波大学循環（右回り・所要時間約25分）のいずれかに乗車し、「筑波大学中央」バス停で下車（運賃はいずれも270円）。

※6番のりば時刻表 ([http://kantetsu.co.jp/bus/timetable\\_files/center/06.pdf](http://kantetsu.co.jp/bus/timetable_files/center/06.pdf))

大会初日の受付開始（9時30分）に合わせてご来校いただくには、つくばセンターを9時に出発するバスにご乗車いただくのが便利です。

◆タクシー つくばセンター（「つくば駅」A4出口隣接）から、「筑波大学中央」で下車（所要時間約10分／1,400円程度）

### 高速バスでのアクセス

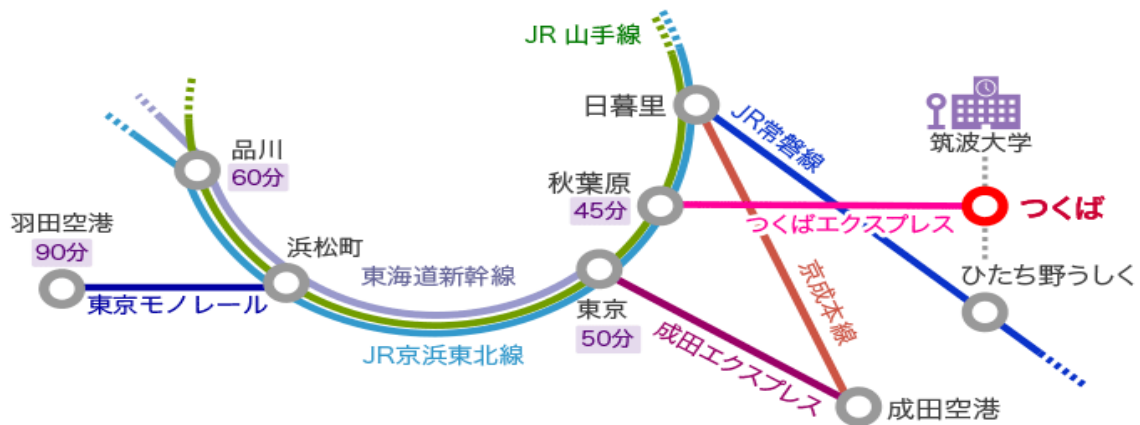
東京駅八重洲南口・高速バス2番のりばから「筑波大学」行きバスに乗車し、「筑波大学中央」で下車  
(約75分) ※ICカード利用運賃 東京→つくば 1,130円、つくば→東京 950円/現金運賃 1,180円

### 駐車場のご案内

県道55号線(学園東大通り)沿いの「筑波大学中央入り口」から入り、本部棟南駐車場(「中央口案内センター」隣接)をご利用ください(約700台収容)

※キャンパスマップ(縦軸K・横軸9付近)([http://www.tsukuba.ac.jp/access/map\\_central.html](http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html))

### つくば駅までの路線図



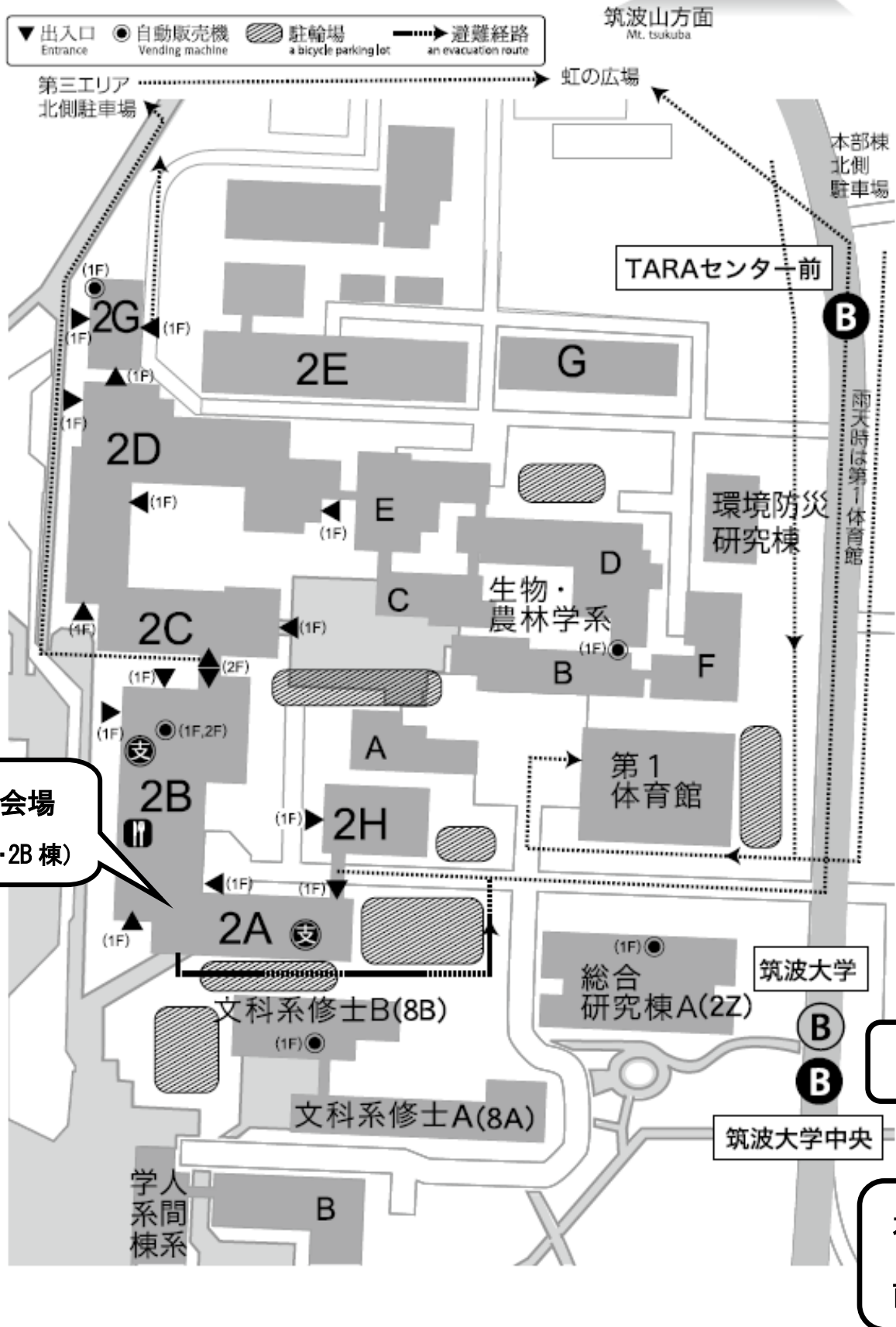
※成田空港、羽田空港からつくばセンター行きのバスが出ています。詳細は、大学HPをご覧ください。

### つくばセンター(「つくば駅」A4出口隣接)から筑波大学までのバス路線図(「筑波大学中央」下車)

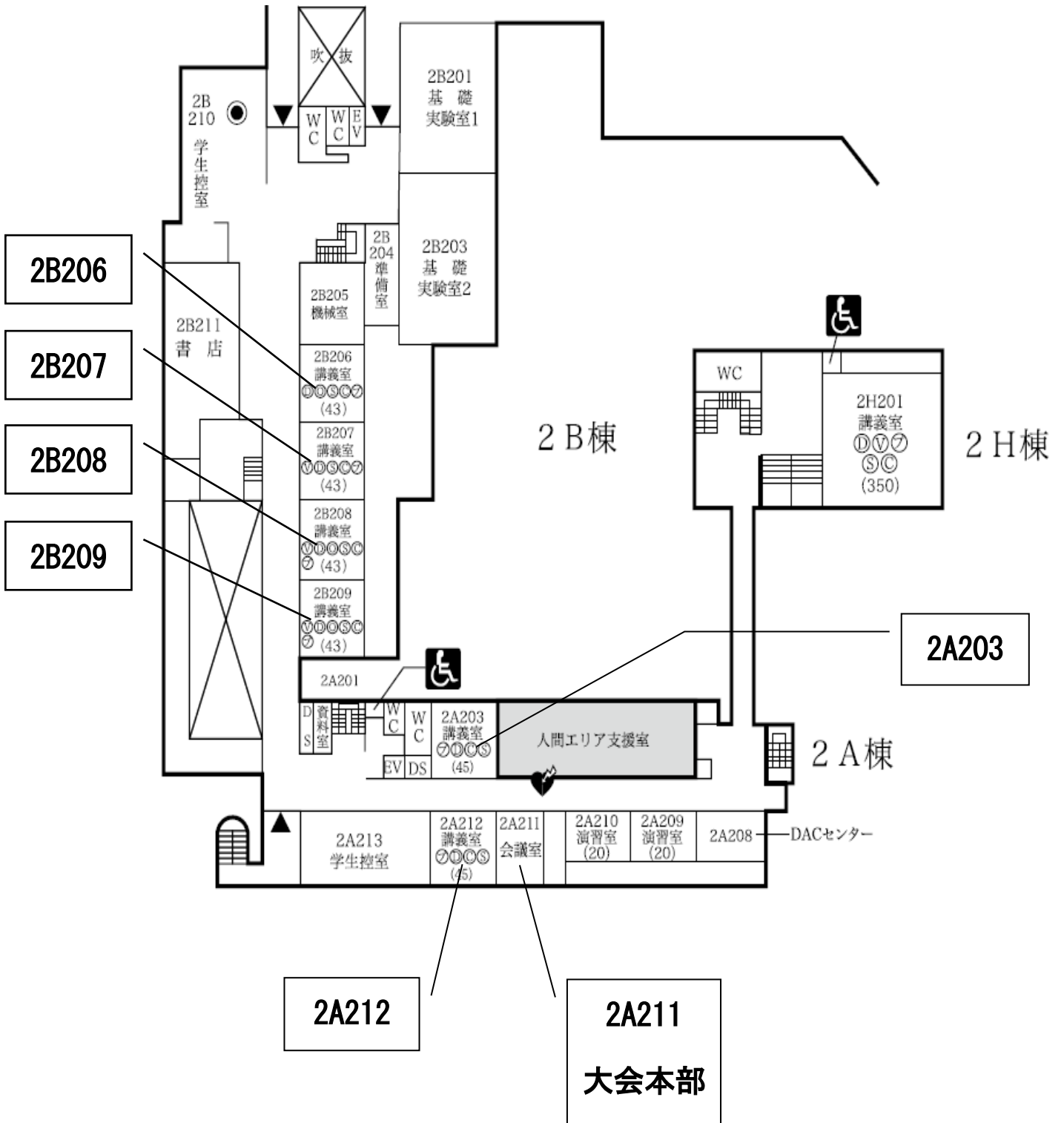


# 会場案内図

## 2A ~ 2H棟

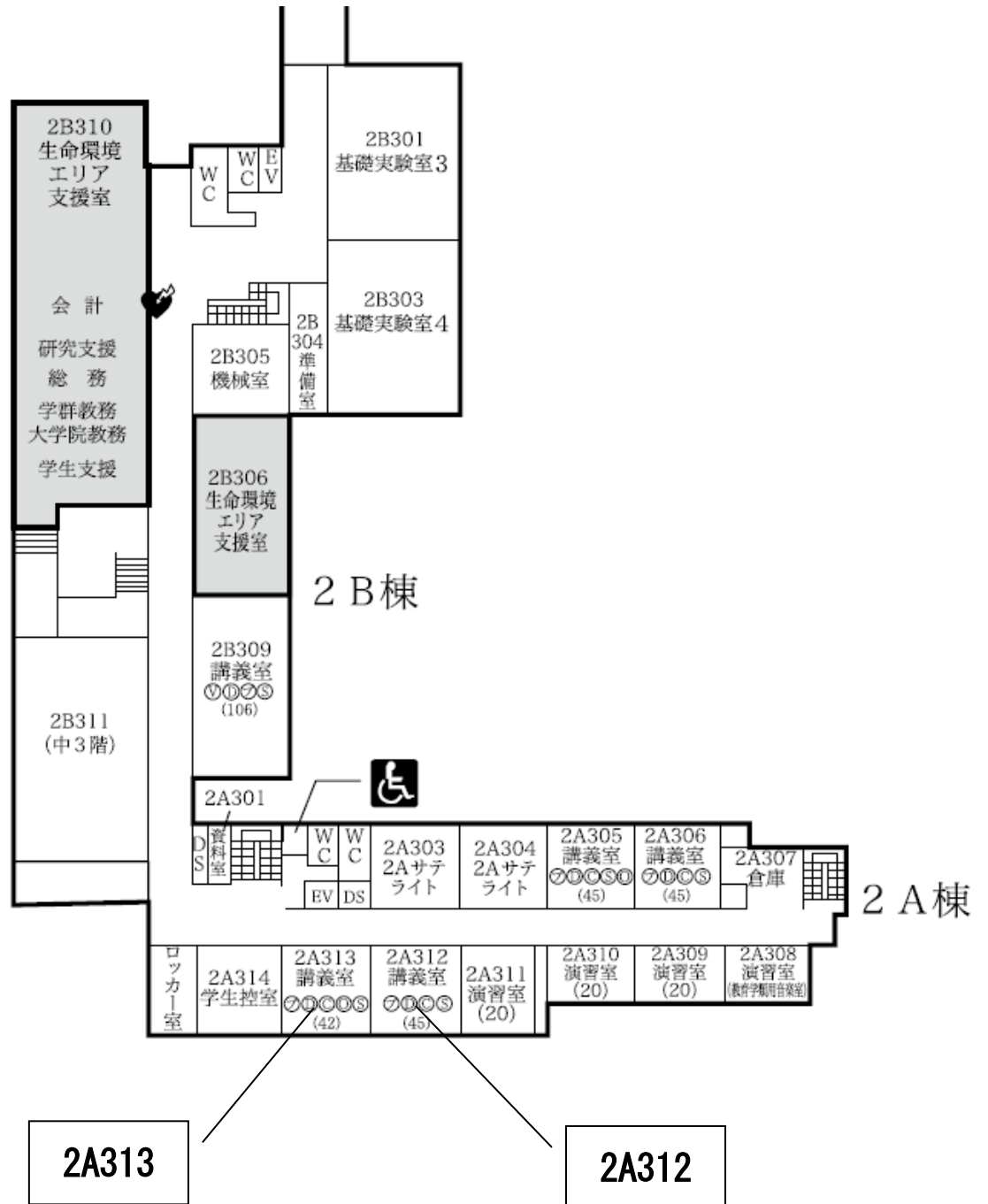


【2A・2B棟 2階】





【2A・2B棟 3階】



【2A・2B棟 4階】

